

| | | | | | | | |
|--------------------|--|--|----|---------------|--------|------|----|
| 科目名 Course Name | コミュニケーション技術Ⅱ Communication skills Ⅱ | | | ナンバリング No. | J2-006 | | |
| 年次 | 1年 | 期別 | 後期 | 単位数 | 1 | 授業形態 | 演習 |
| 担当者氏名 | 大熊信成 | | | | | | |
| 連絡方法 | C-ラーニングで対応。または社会福祉棟 3F 研究室。オフィスアワーは授業担当時間以外。 | | | | | | |
| 必修/選択 | 選択(介護福祉士養成課程必修) | | | | | | |
| 関連 DP | DP2、DP3、DP4 | | | | | | |
| 授業の概要と到達目標 | <p>「コミュニケーション技術Ⅱ」では、実習における利用者とのコミュニケーションを振り返り、自己のコミュニケーションの傾向について分析・評価する。また、コミュニケーション障害について理解したうえで、事例から利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際を学ぶ。さらに、介護におけるチームのコミュニケーションに必要な技術について学習する。</p> <p>①基礎実習Ⅰで作成したプロセスレコードを分析・評価し、自己の傾向および改善点に気づくことができるようにする。</p> <p>②コミュニケーション障害の原因と特徴について説明できるようにする。</p> <p>③障害の特性に応じたコミュニケーションの留意点について、説明できるようにする。</p> <p>④介護におけるチームのコミュニケーションの必要性について、説明できるようにする。</p> <p>⑤介護における記録と報告の要点を列挙できるようにする。</p> | | | | | | |
| 授業の方法 | 基礎実習Ⅰで作成したプロセスレコードをもとに、自己のコミュニケーションについて分析・評価をし、自己の傾向について考察を深める。コミュニケーション障害の事例をもとに、実習での体験もふまえ、利用者の特性に応じたコミュニケーションについて考える授業とする。 | | | | | | |
| 学習成果 | L01 | | | | | | |
| | L02 | ①プロセスレコードの分析・評価を通し、自己のコミュニケーション技術を向上することができる。 ②コミュニケーション障害の特徴を踏まえ、利用者とのコミュニケーション手段を選択し、円滑なコミュニケーションをとることができる。 | | | | | |
| | L03 | 介護におけるチームのコミュニケーション技術を習得することができる。 | | | | | |
| | L04 | | | | | | |
| 課題に対するフィードバック | 毎回の授業でリアクションペーパーを実施する。リアクションペーパーは振り返りを行い全員でシェアをする。また試験対策を行い、授業内で解答・解説を行う。 | | | | | | |
| 教科書/参考図書 | 最新・介護福祉士養成講座 第5巻「コミュニケーション技術」第2版他 授業中に指示し、資料を配布する。※「コミュニケーション技術Ⅰ」で使用したテキストと同様。 | | | | | | |
| 履修上の留意点やルール等 | 一部視聴覚教材を使用し、内容をレポートで確認する。目的意識・課題意識を明確にして授業に臨み、口頭で述べたこともきちんとノートにとること。遅刻・早退・私語・居眠りは厳禁。事前・事後学習に費やすべき時間の目安は各回45分とする。介護福祉士養成課程の学生のみ履修可。 | | | | | | |
| 担当教員の実務経験 | | | | | | | |

| 成績評価の方法と基準 | | | | | |
|------------|--|---------|-----|-----|-----|
| 評価の領域 | 評価基準 | 学習成果の割合 | | | |
| | | L01 | L02 | L03 | L04 |
| 授業参加態度 | 授業への積極的参加を評価する。個人ワークを自主的に行い、明確な課題意識をもって授業に臨むことができる。これらを総合的に判断する。 | | 20 | | |
| レポート/作品 | 提示するテーマについて自分の言葉で述べる事ができる。最高評価であるSは意欲的に課題に取り組んでおり、着手すべきテーマの趣旨に沿っていて、学習の成果が十分に示されている。 | | 20 | | |
| 発表 | | | | | |
| 小テスト | | | | | |
| 試験 | 論述、選択記述式の定期試験を行い、評価する。論述は根拠(エビデンス) | | | 60 | |

| | | | | | |
|-----------|----------------|---|--|----|----|
| | | ス)に基づき自分の言葉で述べられていること。 | | | |
| その他 | | | | | |
| 合計 | | | | 40 | 60 |
| | 回数 | 授業計画 | | | |
| 1 | 授業内容 | ガイダンス(授業概要と進め方・成績評価の方法など) 介護におけるコミュニケーションとは① コミュニケーションの意義と目的【講義】 | | | |
| | 事前・事後学習 | コミュニケーションについてテキストを参照にしてノートにまとめること。 | | | |
| 2 | 授業内容 | 介護におけるコミュニケーションとは② コミュニケーションの基本【講義】 | | | |
| | 事前・事後学習 | コミュニケーションについてテキストを参照にしてノートにまとめること。 | | | |
| 3 | 授業内容 | 介護におけるコミュニケーションの役割【講義】 | | | |
| | 事前・事後学習 | コミュニケーションについてテキストを参照にしてノートにまとめること。 | | | |
| 4 | 授業内容 | 介護における生活支援とコミュニケーション① 介護技術とコミュニケーション【講義】 | | | |
| | 事前・事後学習 | コミュニケーションについてテキストを参照にしてノートにまとめること。 | | | |
| 5 | 授業内容 | 介護における生活支援とコミュニケーション② 介護福祉士に求められるコミュニケーション【講義】 | | | |
| | 事前・事後学習 | 介護福祉士に求められるコミュニケーションについてテキストを参照にしてノートにまとめること。 | | | |
| 6 | 授業内容 | 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション① 話を聴く技法【講義と演習】 | | | |
| | 事前・事後学習 | 傾聴について調べておくこと。 | | | |
| 7 | 授業内容 | 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション② 利用者の感情表現を察する技法、納得と同意を得る技法【講義と演習】 | | | |
| | 事前・事後学習 | バーバル・ノンバーバルコミュニケーションについて調べておくこと。 | | | |
| 8 | 授業内容 | 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション③ 質問の技法【講義と演習】 | | | |
| | 事前・事後学習 | 質問の技法についてテキストを参照にしてノートにまとめること。 | | | |
| 9 | 授業内容 | 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション④ 相談・助言・指導の技法【講義と演習】 | | | |
| | 事前・事後学習 | 相談・助言・指導についてテキストを参照にしてノートにまとめること。 | | | |
| 10 | 授業内容 | 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション⑤ 利用者の意欲を引き出す技法【講義と演習】 | | | |
| | 事前・事後学習 | 意欲を引き出すアプローチについてテキストを参照にしてノートにまとめること。 | | | |
| 11 | 授業内容 | 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション⑥ 意向を調整する技法【講義と演習】 | | | |
| | 事前・事後学習 | ファシリテートの意味について調べておくこと。 | | | |
| 12 | 授業内容 | 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション⑦ 複数の利用者がある場面でのコミュニケーション【講義と演習】 | | | |
| | 事前・事後学習 | 場面を想定してノートにまとめておくこと。 | | | |
| 13 | 授業内容 | 自己理解と他者理解① プロセスレコードとは【講義】 | | | |
| | 事前・事後学習 | プロセスレコードを作成すること。提出すること。 | | | |
| 14 | 授業内容 | 自己理解と他者理解② プロセスレコードの記述方法【講義と演習】 〈プロセスレコードを考察して提出〉 | | | |
| | 事前・事後学習 | プロセスレコードの発表を行う。準備をしておくこと。 | | | |
| 15 | 授業内容 | 自己理解と他者理解③ プロセスレコードの考察・自己評価【演習とまとめ】 〈プロセスレコードの評価を提出〉 | | | |
| | 事前・事後学習 | プロセスレコードの発表を行う。準備をしておくこと。試験対策を行うこと。 | | | |